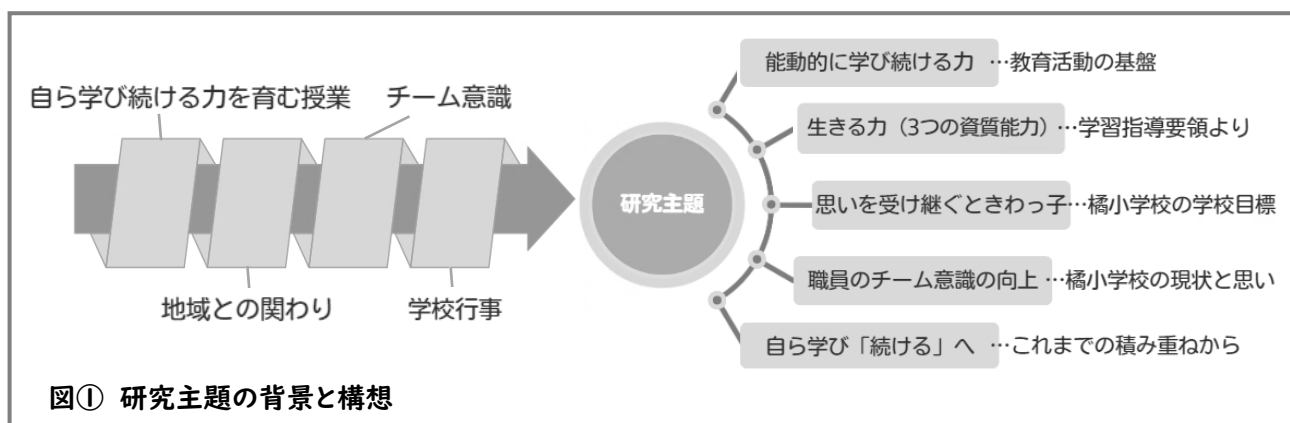


自ら学び続ける児童の育成

～学校・家庭・地域の3つの和をもつ授業実践を通して～

1. 研究構想

「生涯にわたって能動的に学び続ける力」（学習指導要領より）という教育目標があり、そこに向かう学校目標「生きる力を身に付け学校・家庭・地域の思いを受け継ぐときわっ子の育成」をベースに本研究を進めていく。その中で、児童の実態や本校教職員の思いを踏まえ、本研究主題を設定した。図①の右側に示すように、5つの思いの上に本研究が成り立っている。



自ら学び続ける力を育む授業実践を行うことで、児童の能動的に学び続ける力の育成につながる。その授業実践と並行して、本校ならではの学校行事や家庭・地域との関りを大切に、それらを研究の手立ての一要素としながら、研究主題に迫りたい。また、職員同士の学び合いも手立ての一つに取り入れることで、今年度から導入したチーム担任制を学校に根付かせ、よりよい教育効果をねらうこともできる。以上のように、児童はもちろん、教員にとっても有意義な研究となるように取り組んでいきたい。

2. 研究主題

本研究で目指す児童の姿と授業は、それぞれ3つの視点で定義する。

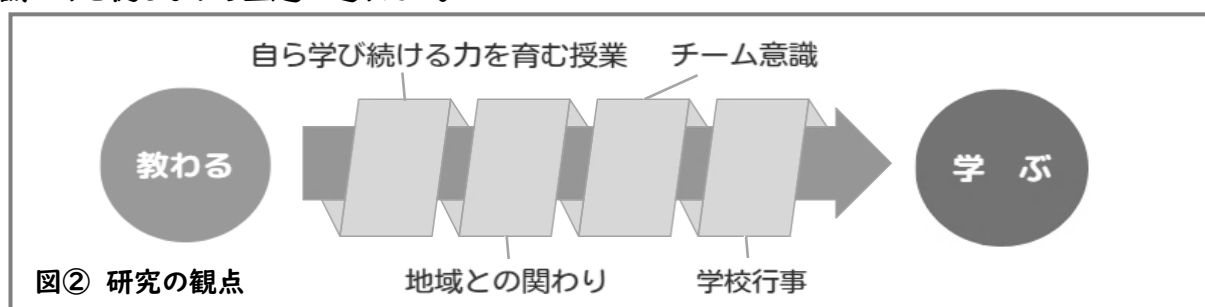
目指す児童の姿

- 1) 自分で「考える」児童 …予想したり自分事として関心をもったりしながら解決に努める姿
- 2) 自分で「行動する」児童 …自分にとって最適だと思う学習形態や学習方法を決められる姿
- 3) 自分で「深化する」児童 …学んだことを深めたり、日常生活へと広げたりする姿

目指す授業の定義

- 1) 知識を活かして思考を促す授業 …身に付けた知識を使いながら、解決のために思考が働く学習
- 2) 自己決定や自己調整のある授業 …自分の考えを持ち、自分にとって最適な方法を選択する学習
- 3) 日常生活へと繋げられる授業 …学びを日常生活に活かし、知識を深めることができる学習

図②で示すように、本研究は上記の自ら学び続ける力を育む授業をどのように取り組んでいくかという、授業作りの観点から進めていく。自ら学び続ける力を育む授業づくりに取り組むことで、「教わる→学ぶ」意識づけを促しながら主題に迫りたい。



3. 研究仮説

- 1) 自ら学び続ける力を育む授業に取り組むことで主体性が高まり、能動的に学び続ける力が高まるのではない。【児童の変容】
- 2) 教師の学び合いを充実させることで、教師の資質向上に繋がり、自ら学び続けられる授業実践になるのではない。【教師の資質向上とチーム意識の高まり】
- 3) 教師の学び合いや授業実践を繰り返すことで、充実した授業・行事づくりに繋がるのではない。【学校目標への到達】

4. 研究方法

1) 教師が学び合う『万葉タイム』の実施

- ・テーマに沿った内容で「知りたいこと」と「伝えられること」を集約し、お互いにアイデアやスキルを伝え合う。
- ・伝える側と聞く側をどちらも経験することで、両者の学びの機会を設定する。
- ・研究主任がマッチング・コーディネートする。

2) 授業実践の公開

- ・国語、算数、生活、総合に教科を限定して特別支援以外の全教員が公開授業に取り組む。

教科の選定理由

- 【国語】児童の思考が広がりやすいという教科の特性から
- 【算数】児童のものの見方・考え方を見取りやすいから（昨年度の研究より）
- 【生活】地域との関りが強く児童の思考（思い）がはたらきやすいから
- 【総合】年間を通して取り組む地域行事が多く児童の変容を見取りやすいから

- ・全体授業 …提案、低学年、中学年、高学年の全4回。授業研究会も行う。
- ・フリー授業 …全体授業以外の学年が公開。授業研究会は管理職とペア学年と研究主任で行う。
- ・授業公開と授業研究会を行い、実践を見せ合う機会を作る。

3) 学びの DX 化を意識した実践

- ・実態把握のため、定期的に Forms で児童と教員の意識調査を行う。
- ・Forms の結果から1年間の変容を見取り、評価と授業実践に活かす
- ・授業や『万葉タイム』で適宜 ICT を活用し、お互いに紹介し合う。

5. 実施計画

日程	内 容	日程	内 容	日程	内 容
4月9日	研究構想の提案 【研究主任】	7月2日	万葉タイム② 【伝え合い】	10月22日	万葉タイム⑤ 【分担・準備】
4月30	担当と計画づくり	7月16日	全体授業① 【 】	10月29日	全体授業② 【 】
5月28日	提案授業 【研究主任】	8月27日	万葉タイム③ 【分担・準備】	11月5日	万葉タイム⑥ 【伝え合い】
6月18日	万葉タイム① 【分担・準備】	9月3日	万葉タイム④ 【伝え合い】	12月3日	全体授業③ 【 】

※12月後半～2月末までの内容は、まとめや次年度提案について研究主任が取りまとめていく。